

アメリカ人大学生におけるプライベート空間7機能

—電子調査法を用いて—

筑波大学心理学系 泊 真児

目白大学人間社会学部 今野 裕之

筑波大学心理学系 吉田富二雄

The seven functions of private space among american undergraduates: An internet survey

Shinji Tomari (*Institute of Psychology, University of Tsukuba, Tsukuba 305-8572, Japan*)
Hiroyuki Konno (*Faculty of Human and Social Science, Mejiro University, Shinjuku, 161-8539, Japan*) and Fujio Yoshida (*Institute of Psychology, University of Tsukuba, Tsukuba, 305-8572, Japan*)

The present study investigates the seven functions of private space (Tomari & Yoshida, 1998a, 1999) with respect to emotional states and use of place among American undergraduates. A questionnaire concerning emotional states, use of place and the seven functions of private space was administered to 76 American undergraduates in an internet survey. The main results are as follows: (1) cross-cultural validity of the concept of the seven functions of private space confirmed in the American undergraduates data. (2) Japanese undergraduates and American undergraduates differ greatly in terms of the places used to achieve certain functions of private space in response to their emotional states. The implications of these results are discussed.

Key words: internet survey, seven functions of private space, emotional state, use of places.

問 題

Altman(1977)は、Gregor(1970, 1974)によるブラジルの少数民族を対象とした文化人類学的研究を例に、共同生活によってプライバシー(この研究では、他者の目から自己を遮蔽できる時間や場所のことを指す)がほとんど持たない文化においては、村の周辺にプライベートな空間を確保できるような小道や空き地が用意されていたり、数日間村から離れる行動が許容されていたことを報告した。また、Patterson & Chiswick(1982)はボルネオの少数民族を対象とした研究において、長屋生活で物理的にプライバシーを確保することが困難な彼らの文化では、長屋が日中は公共空間として利用され、夜になるとプラ

イベートな空間に移行すること、喪中・宗教的儀式の時には見知らぬ人に対して閉ざされる等の社会的ルールが存在することを見出している。こうした先行研究を踏まえて、Altman & Chemers(1980)は、プライバシーの確保が文化によらず普遍的に観察される現象であることを指摘している。

本邦では、Altman(1975)によるプライバシーの定義「自己または自集団に対する他者の接近(access)を選択的に統制している状態」の影響を受け、先行研究では、主にプライバシーが維持される多様な状況を個人がどの程度志向するか評定させ、因子分析によってそうした状況の主要次元を明らかにするプライバシー志向性研究がなされてきた(岩田, 1987; 吉田, 1996; 吉田・溝上, 1996)。例えば、岩田(1987)

はプライバシー志向性とYG性格検査の関係を検討し、思考的外向の高い者は「独居志向」が弱く、攻撃性・客観性のなさ・回帰性・抑うつ性の傾向がそれぞれ強い者ほど「独居志向」が強いことを見出した。また、吉田(1996)もプライバシー志向性尺度(吉田・溝上, 1996)7因子(独居・友人との親密性・遠慮欲求・閑居・隔離・自由意志・家族との親密性)とYG検査の関係を検討した。その結果、社会的外向の高い者は「独居」・「閑居」を求めることは少なく、のんきさの高い者ほど「隔離」を求め、攻撃性・回帰性が強い者ほど「自由意志(free will):他者に構わず自由な行動を求める」志向が強いことを報告している。しかしながら、これらの研究ではプライバシー志向性は個人特性と類似した形で扱われ、これらの志向性が具体的な行動・状況とどのように関係しているかが十分に検討されていなかった。

こうした中で、泊・吉田(1998a)は「社会的役割から離れて、他者の目を気にせずに自由に振る舞える自分固有の領域(時間や空間)」をプライベート空間と定義し、プライベート空間が持つ機能的特性を分析した。具体的には、先行研究や自由記述調査の結果を整理する中で、プライベート空間の機能を7機能に分類し、それぞれが個人にとってどの程度重要であるかを測定する尺度を作成した(泊・吉田, 1998a, 1998b)。それによると、プライベート空間の機能は、緊張解消・自己内省・課題への集中・率直なコミュニケーション・気分転換・情緒的解放・自己変身の7機能に尺度化され、さらに、これら7つの心理的機能は空間的な性質によって専有空間・共有空間・解放空間の3種類の空間に構造化されることが明らかにされた。すなわち、プライベート空間の7機能には、まず、休息を取ってリラックスすることを意味する緊張解消、自己を見つめ直し混乱した状況や気持ちを整理する自己内省、そして課題や考え事に集中して取り組む課題への集中の3機能があり、それらは他者の存在がなく「(自分1人で)専有できる空間」の機能として構造化される。次に、親しい人との時間や空間の共有を意味する率直なコミュニケーションは、「共有できる空間」の機能として意味づけられる。さらに、散歩や買い物等によるちょっとした気持ちの切り替えを意味する気分転換、感情をありのままに解放する情緒的解放、そして普段の役割から離れて別の自己を演出する自己変身の3機能は、「(他者への気兼ねがいらぬ)自己解放できる空間」の機能として構造化される。これらの研究をもとに、泊・吉田(1999)はプライベート空間の7機能が、実際の日常生活の中でどのように機能しているかを感情状態や場所利用との関

係をもとに検討した。その結果、感情との関係では、抑うつ感・いらだちを感じている者ほど、自己内省したり、気分転換を図る時間・空間を求めていること、忙しい・束縛されている等の被拘束感を感じる者は、気分転換や情緒的解放、緊張解消等の機能を必要とすることを明らかにした。さらに、率直なコミュニケーション・気分転換・情緒的解放・自己内省の機能が確保できている者ほど、抑うつ感やいらだちを感じる者が少なく、専有できる空間や自己解放できる空間の機能を確保しているほど、無気力感・被拘束感に悩まされることが少ないことを見出した。次に、場所利用との関係では、毎日同じような生活を繰り返し生活空間が固定化(日常性の空間をよく利用)している人ほど気分転換を求め、率直なコミュニケーションや緊張解消を求める人ほど、居酒屋や友人の家等の「交友できる空間」をよく利用していることが示された。また、専有できる空間の3機能(課題への集中・自己内省・緊張解消)と気分転換・情緒的解放は、いずれも「1人になれる空間」で満たされ、率直なコミュニケーションは「交友できる空間」や「1人になれる空間」で行われやすいことが見出された。さらに、自己変身は旅先やディスコ等のいわゆる匿名的な空間や、居酒屋・カラオケハウス・行楽地等の一種の非日常的な空間で満たされていることが明らかとなった。

ここで、冒頭で述べたように、プライバシー確保の欲求が文化によらず普遍的に観察される現象であるとすれば、日本以外の文化圏でもプライベート空間7機能が必要とされ、あるいは確保されていることが予測される。そこで、本研究では主に次の3つの目的について検討する。第一の目的は、泊・吉田(1999)の知見を再確認する意味も込めて、プライベート空間7機能と感情および場所利用の関係を、アメリカ人大学生を対象として検討することである。第二の目的は、プライベート空間7機能を必要とし、また確保することが私たちにとってどのような意味を持っているのかを、個人のアイデンティティやセルフとの関係から明らかにすることである。先行研究(泊, 2000; 泊・吉田, 1998a, 1998b, 1999)では、感情やパーソナリティといった内的要因、場所利用や日常活動といった外的要因との関係が検討されてきたが、プライベート空間7機能を確保することが持つ意味については十分検討されてきたとは言えないためである。Westin(1967)によると、プライバシーの確保は個人の自律性を促す機能を持つとされ、個人のアイデンティティの確立と深く関与していると考えられている。そうした指摘をもとに、本研究では、個人が独自の自己存在として

のアイデンティティを確立しようとする志向性のことの意味する「ユニークネス欲求」を取り上げる。そして同時に、プライベート空間7機能を必要とする、あるいは確保することが個人のセルフにもたらず意味を探るため、自己概念の明晰性(Campbell, Trapnell, Heine, Katz, Lavallee, & Lehman, 1996)を取り上げる。

Schoeneman(1981)は、私たちの自己知識の形成において、1. 自己観察、2. 社会的比較、3. 社会的フィードバックのどの資源が用いられるか、アメリカ人大学生を対象に調査した。その結果、彼らは自分の特性を記述するのに自己観察を用いる事が圧倒的に多い事を示したという。ここから、プライベート空間7機能の観点で考えると、彼らは自己内省機能を良く確保し、それを通じて自己知識を得ることが多いと予想される。本邦でこれと同様な調査を行った高田(1990)によると、日本人大学生も自己観察を用いる事が多いものの、アメリカ人大学生より他者との比較・フィードバックを用いて自己を認識する傾向が強い事が明らかにされている。すなわち、日本人被験者の自己知識形成は、アメリカ人被験者よりも社会的文脈や状況に規定されていると考えられる。ただ、いずれにせよ私たちは他者との率直なコミュニケーションを通じて自己認識を深めるものと考えられる。

以上を踏まえ、次の予測が立てられる。

- (1) プライベート空間7機能の確保、より具体的には自己内省・率直なコミュニケーション機能を確保しているほど自己知識の明晰性が高いであろう。また自らをユニークな人間であると考えているほど、自分を多様に表現できるようなプライベート空間、特に自己解放空間の機能をより求めているであろう。
- (2) アメリカ人大学生は自己内省機能をより確保することで自己概念の明晰性(Campbell et al., 1996)が高まっているであろう。

最後に、第三の目的として、新たな調査手法である電子調査法(internet survey)を試み、その適用に伴う長所と短所を探ること、があげられる。

方 法

調査対象 アメリカ合衆国のプリンストン大学・ヴァージニア州立大学の学生76名(男子50名、女子26名 平均年齢20.63歳)。

調査手続き 調査は電子調査法(internet survey, web page-based survey)と呼ばれる形式で行った。すなわち、英語版質問紙をインターネットのウェブ

ページ上に載せ(アンケートフォームの作成)、回答者が各質問項目に対する回答を記入して送信ボタンを押すと、結果が調査者に電子メールで送られるという仕組みである。この英語版質問紙は2度のバックトランスレーションを経て作成された。まず著者らと米国からの帰国子女の学生が共同で英語版質問紙を作成し、第1回目のバックトランスレーションを米国在住歴17年の帰国子女の筑波大学生に依頼した。続いて、この添削結果をもとに筆者らが再び英語版質問紙を修正した。そして、第2回目のバックトランスレーションをミシシッピ州立大学を卒業し日本の国立研究所で勤務する研究員に依頼した。これらの手続きを経て作成された質問紙を電子調査法形式にする作業は、米国プリンストン大学でコンピューターサイエンスを専攻する大学生に依頼した。なお、被調査者となるアメリカ人大学生の募集は、このプリンストン大学生の交友関係を通じてなされた。電子調査法で用いた英語版質問紙は付録1として末尾に掲載されている。

質問紙の構成 (1)プライベート空間7機能の必要度・確保度の測定：泊・吉田(1999)によるプライベート空間機能尺度7項目版(短縮版)を用い、必要度は「非常に必要である」から「まったく必要でない」の7段階で、確保度は「確保できている」から「確保できていない」の4段階でそれぞれ評定させた。(2)プライベート空間7機能の確保度の測定：米国においてもプライベート空間機能尺度の因子構造が安定的に確認されるかどうかを検討するために31項目版尺度を用いた。(3)最近の感情状態の測定：泊・吉田(1999)が用いた最近の感情に関する16項目の因子分析結果に基づき、4つの因子に高く負荷する項目を中心に計8項目を選んだ。具体的には、落ち込んでいる、寂しい、いらいらする、むしゃくしゃする、毎日が退屈である、やる気に満ちている、忙しい・追われている、束縛されている、である。「非常に当てはまる」から「まったく当てはまらない」までの5段階で評定させた。(4)プライベート空間7機能を確保するための場所：泊・吉田(1998a, 1999)によるプライベート空間7機能を具体的にどのような場所・時間帯で確保しているのかについて、それぞれ自由記述させた。例えば、緊張解消機能の場合は、「ゆっくり休息しリラックスできる(時間や場所)…」という項目を示し、各人が実際に利用する場所やそこを利用する時間帯を具体的に記述させた。(5)ユニークネス欲求の測定：まず、岡本(1985)、山岡(1993)の質問項目の内、質問内容が(a)日米の文化的価値観による差異がないと思われるもの、(b)英語版の質問内容がアメリカ人に十分理解可能

であるもの、という2つの基準で5項目を選び、それと独自作成の2項目を合わせた計7項目を用いた。評定は「まったく当てはまる」から「まったく当てはまらない」の5段階である。(6)自己概念の明晰性の測定:Campbell et al.(1996)による自己概念の明晰性尺度12項目を「まったくそう思う」から「まったくそう思わない」までの5段階で評定させた。
調査期間 1999年9月30日～10月28日の約1カ月間。

結果と考察

1. プライベート空間7機能と感情及び場所利用の関係

分析に先立ち、Fig. 1にプライベート空間機能尺度7項目版の必要度・確保度について平均値のプロフィールを示す。これより、本研究のアメリカ人大学生においては、専有空間の3機能(緊張解消・自己内省・課題への集中)および共有空間の率直なコミュニケーション機能は、“ある程度必要”とされ、かつ“ある程度確保できている”機能であることが

読み取れる。自己解放空間の3機能(気分転換・情緒的解放・自己変身)については、どちらかというが必要であるが、確保できていない機能であると言えよう。先行研究の日本人大学生のデータでは、必要度の平均値は7機能とも“かなり必要である”に近く、確保度は“どちらかというと確保できていない”から“確保できていない”の間を示していることが分かっている(泊, 2000)。調査対象者や調査方法が異なり、また無作為標本でないことを考慮すると厳密には比較の意味をなさないが、アメリカ人大学生は日本人大学生よりもプライベート空間7機能の確保度が全般に高く、必要度はやや低いようである。おそらく、プライベート空間7機能が普段からある程度確保できているため、それら7機能に対する欲求があまり強くないためと解される。

泊・吉田(1999)の知見と比較する目的で、プライベート空間7機能と最近の感情状態の関係を検討した。具体的には、泊・吉田(1999)の因子分析の結果に基づき、感情状態の測定に用いた8項目を、抑うつ感(落ち込んでいる、楽しい(逆転項目))、いらだ

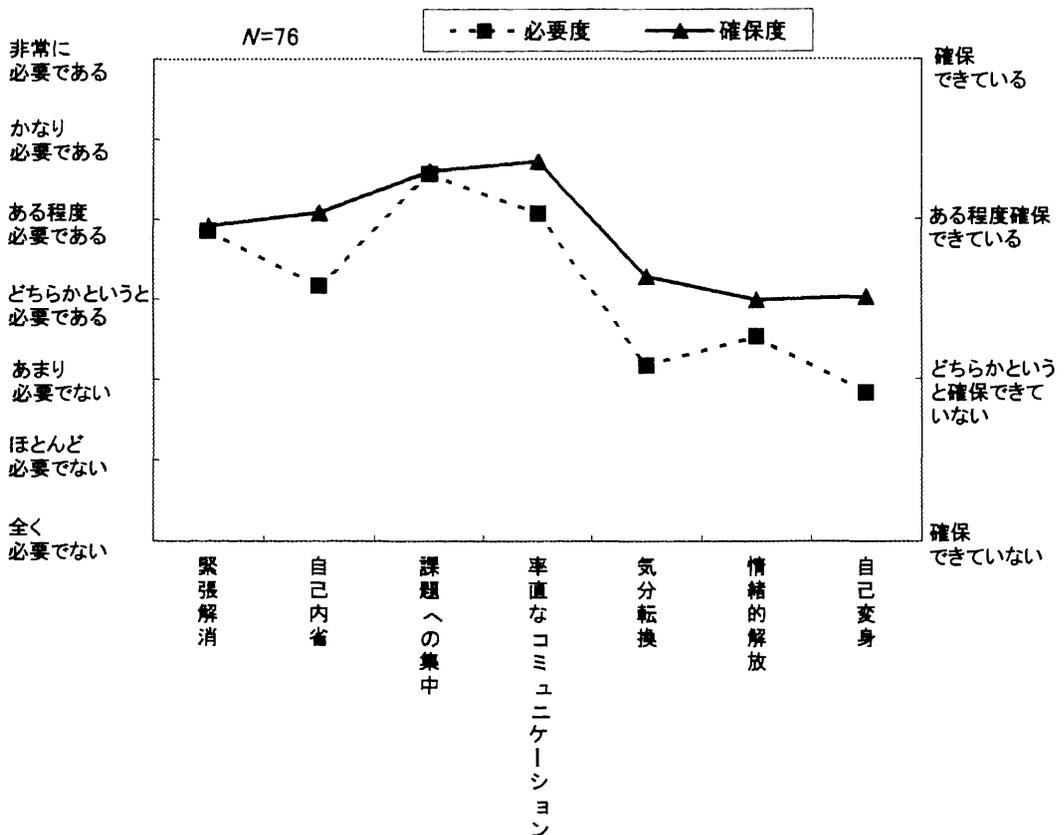


Fig. 1 プライベート空間機能尺度必要度・確保度の平均値プロフィール

ち(いらいらする, むしゃくしゃする), 無気力感(毎日が退屈である, やる気に満ちている(逆転項目)), 被拘束感(忙しい・追われている, 束縛されている)の4変数にまとめた。これら4変数の合成得点とプライベート空間7機能の必要度・確保度との間でPearsonの相関係数を求めた結果をTable 1に示す。これより, 抑うつ感を感じている者は率直なコミュニケーション・課題への集中を求めない一方で, 気分転換を必要としていることが分かった。また, いらだちを感じている者は自己内省を求めていることが示された。泊・吉田(1999)の日本人大学生データでは, 抑うつ感・いらだちを感じている者は自己内省・気分転換を求めていることが示されている。本研究のアメリカ人大学生のデータは部分的に一致しているものの, 抑うつ感を抱えている時に率直なコミュニケーション・課題への集中を求めないという点が日本人データと異なっていた。すなわち, 日本人大学生では落ち込んでいる等のネガティブな感情の時に率直なコミュニケーション機能が強く求められていた。アメリカ人大学生の場合, 気持ちが沈んでいる時にはたとえ親しい相手であっても時間や空間の共有を避け, なんとかそうした気分からの脱却を凶ろうとしているのかもしれない。Brown(1992)によれば, ネガティブな感情状態の時には, そうした感情を他者から隠蔽するために一人になれるプライベートな場所が好まれることが見出されている。本研究の結果はBrown(1992)の知見にも矛盾しない。続いて, 無気力感を感じている者は気分転換を求めていることが明らかとなった。泊・吉田(1999)では無気力感とプライベート空間7機能

は無相関であった。アメリカ人大学生の場合, 無気力感を抱えている時にはそのままの状態に身を委ねるのではなく, 気持ちの切り替えを求めるのであろう。被拘束感については, 緊張解消の必要度と正, 課題への集中の確保度と負の相関がそれぞれ見られた。すなわち, 忙しいとか束縛されていると感じる者ほど, 課題に集中しにくいようであり, ゆっくりリラックスできる場が求められていることを意味する。逆に見れば, 課題に集中できる場が確保されていれば, 被拘束感に煩わされることが少ないと考えられよう。泊・吉田(1999)では被拘束感は課題への集中の確保度と無相関であり, 本研究の結果とは異なる。本研究の調査対象者の大半が全米の最難関校であるプリンストン大学の所属であることが, こうした結果に反映されている可能性があるだろう。

次に, アメリカ人大学生では, プライベート空間7機能が具体的にどのような場所や時間帯の利用を通じて確保されているのかについて検討した結果をみる。プライベート空間7機能それぞれについて, 具体的にどのような場所で確保するか記述させた結果を付箋紙に書き出し, それらをKJ法を援用してまとめた結果がFig. 2である。同様にして, その場所を利用する時間帯を集計した結果がFig. 3である。まず, Fig. 2より特徴的な結果についてみると, 緊張解消・自己内省と情緒的解放・気分転換は主に自分の部屋でなされることが多いことが分かった。課題への集中・率直なコミュニケーションは自分の部屋だけでなく外出先(森の中, 大学構内, 教会等)や友達の部屋といった様々な場所でなされているようである。自己変身は友達の部屋・娯楽施設

Table 1 プライベート空間7機能の必要度(確保度)と感情4変数の相関係数

プライベート空間7機能		感情4因子			
		抑うつ感	いらだち	無気力感	被拘束感
緊張解消	必要度 (確保度)				.29*
自己内省	必要度 (確保度)		.31**		
課題への集中	必要度 (確保度)	-.26*			(-.23*)
率直なコミュニケーション	必要度 (確保度)	-.26*			
気分転換	必要度 (確保度)	.26*		.27*	
情緒的解放	必要度 (確保度)				
自己変身	必要度 (確保度)				

N=76

* $p < .05$, ** $p < .01$

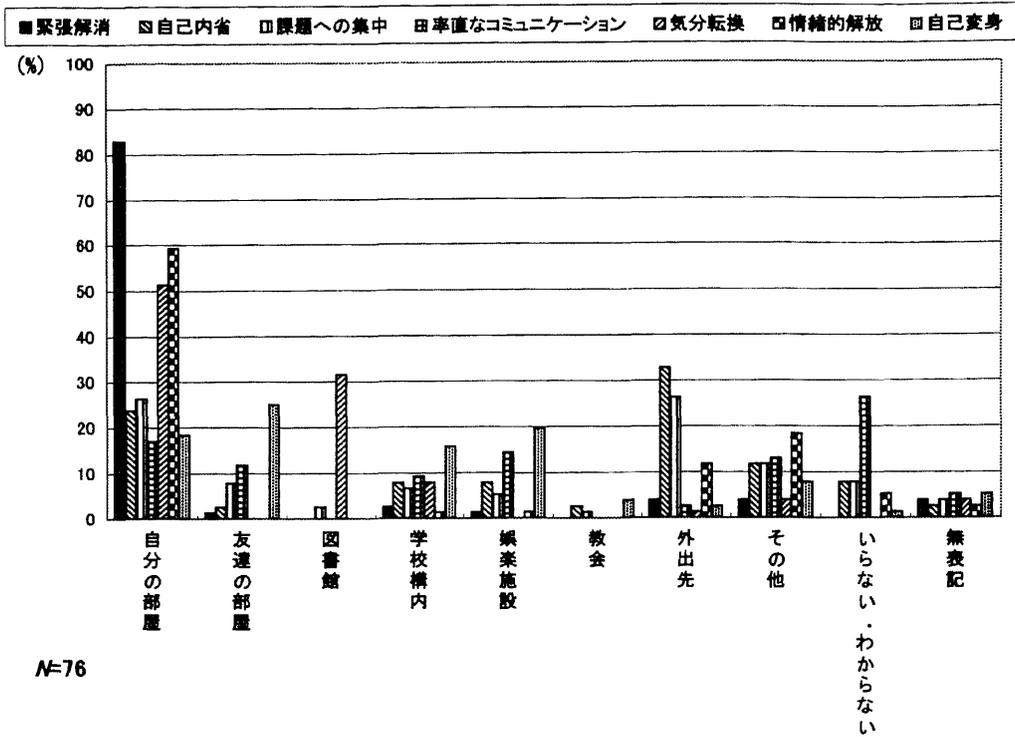


Fig. 2 プライベート空間7機能を果たす場所のカテゴリー分布

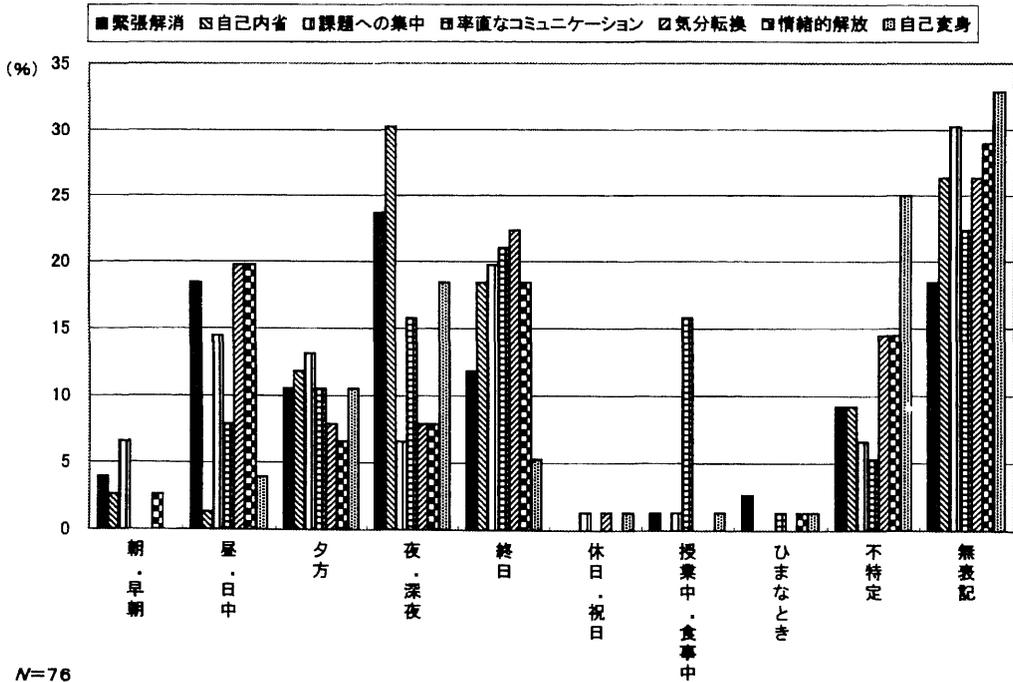


Fig. 3 プライベート空間7機能を果たす利用時間帯のカテゴリー分布

(ダンススタジオ, クラブ, パーティ会場等)・自分の部屋が多かった。泊・吉田(1999)の日本人大学生データに比べて, 自己内省や課題への集中の場として教会や森の中があげられていた点が特徴的であった。これは宗教的背景や生活環境の相違がかなり反映されている結果と考えられる。ただ全般的な結果のパターンは泊・吉田(1999)の知見とも整合しており, プライベート空間7機能と場所利用の相互規定的関係が, 日本とは異なる文化圏のアメリカでもある程度共通していることが確認されたと言えるかもしれない。Fig. 3の利用時間帯の結果については, 緊張解消・自己内省・自己変身が夜間になされやすいこと, 率直なコミュニケーションが食事中・授業中に多く見られたこと等が目についた。全体に無表記が15%~33%程度見られたことを考えると, プライベート空間7機能を確保するにあたり, “時間帯”はあまり意識されていない可能性が考えられよう。

2. プライベート空間7機能と自己の関係

プライベート空間7機能を必要とし, また確保できていることが, 個人のアイデンティティやセルフとどのように関係づけられるのかについて検討を行った。具体的には, プライベート空間7機能とユニークネス欲求, 自己明晰性との関係をそれぞれ分析した。分析に先立ち, ユニークネス欲求7項目, 自己明晰性12項目について, それぞれ主成分分析を行った。その結果, ユニークネス欲求の項目は全て第一主成分に, 43以上の高い負荷量を示したので一次元性が高いと判断し, 7項目を単純加算した合成得点を求め, これをユニークネス得点として後の分析に用いた(Cronbachの α 係数は $\alpha = .74$)。続いて, 自己明晰性に関しては, 項目6「自分の中にある様々に異なった性格が互いに対立することはめったにない」を除く11項目が第一主成分に, 44以上の高

い負荷量を示したことから一次元構造と見なし, これら11項目で尺度の合成得点を算出した(Cronbachの α 係数は $\alpha = .82$)。なお, 自己明晰性の項目は11項目中10項目が逆転した表現になっている。本研究ではそれらを逆転項目として処理することで項目の意味が捉えにくくなる弊害を避けるため, 逆転項目ではない項目11をあえて逆転させて合成得点を求めた。すなわち, ここでは自己明晰性11項目の合成得点を「自己不明晰性」得点として扱うこととする。ユニークネス・自己明晰性に関する主成分分析の結果を, 順にそれぞれTable 2, Table 3に示す。

プライベート空間7機能とユニークネス欲求および自己不明晰性との相関係数を表したのがTable 4である。これより, ユニークネス欲求が強い者は, 普段の自分とは違う自分を演出する“自己変身”を求め, 自己内省・課題への集中・気分転換が確保できているようである。ユニークネス欲求の高さは, 個性的な人間になることを重んじ多様な自己表現を志向することを意味する。そうした志向性がこの結果に反映されているものと解される。

次に, 自己不明晰性については, 自らの自己概念が不明晰である者ほど率直なコミュニケーションを求めず, 気分転換・自己変身を求めることが明らかとなった。すなわち, 自己概念が不明晰であるとは自己の考え・信念・願望・性格に関する知識が曖昧であることを意味する。こうした自己アイデンティティが定まらない者にとっては, たとえ親しい人であっても率直なコミュニケーションを交わすことは苦痛であるのかもしれない。むしろ, 自己概念が不明晰な状態にある自分自身を変えたい(自己変身)とか, 気持ちの切り替えを図りたい(気分転換)という欲求が強まってくるものと考えられよう。

Table 2 ユニークネス尺度の主成分分析の結果

	N=76		
項目	平均値	標準偏差	主成分負荷量
2. 月並みな人間と思われたくない	3.17	1.27	0.76
4. 他人と同じ事をするより他のことをやってみたい	3.63	1.11	0.76
5. いつも信頼できる方法を用いるだけの人間だと思われるよりもむしろ新しいアイデアを試みる人間だと思われたい	3.91	0.91	0.75
6. 社会生活の中で自分自身の多様な側面を表現していきたい	2.93	1.18	0.75
7. 人生の中で出来るだけたくさん役割を演じてみたい	2.68	1.16	0.69
3. 自分はユニークな人間である	4.13	0.88	0.43
1. 既製のものにはこだわらず自分がよいと思ったことをする	3.32	1.17	0.43
	寄与率		3.14
			44.86

Table 3 自己明晰性11項目に関する主成分分析の結果

項目および項目番号	平均値	標準偏差	N=76
			主成分負荷量
8. 私が自分自身について信じている事はくるくと変わっているように見える	1.87	0.96	0.81
2. 私がどのような人間であるか、その考えは日によって変わったりする	2.95	1.31	0.72
1. 自分がどんな人間であるかについて、私は互いに矛盾する様々な考えを抱いている	2.46	1.12	0.70
9. あなたはどんな性格と聞かれたら、その答えは日によって変わると思う	2.01	1.08	0.65
3. 自分がどのような人間なのかについて多くの時間を使って思い巡らすことがある	2.71	1.31	0.64
4. 時々私は今の自分が本当の自分ではないと感じる	3.05	1.18	0.64
10. 私は“本当はこんな人間である”と他人にいうことは、たとえ私がそうしたいと思っても出来ないと思う	2.07	1.16	0.63
12. 自分が本当は何が欲しいのか分からないためにしばしば物事を決められない時がある	2.80	1.33	0.56
11. 自分は誰で、どんな人間なのかは大体のところははっきりわかっている	2.38	1.10	0.52
5. 過去の自分がどんな人間だったかよくわからない	2.45	1.24	0.44
7. 時々自分の事より他人の事のほうがよく分かると思うことがある	1.95	0.94	0.44
	寄与		4.28
	寄与率		38.92

Table 4 プライベート空間7機能とユニークネスおよび自己不明晰性の相関係数

プライベート空間7機能	ユニークネス	自己不明晰性
緊張解消	必要度 (確保度)	
自己内省	必要度 (確保度)	(.25*)
課題への集中	必要度 (確保度)	(.23*)
率直なコミュニケーション	必要度 (確保度)	-.41**
気分転換	必要度 (確保度)	.27*
情緒的解放	必要度 (確保度)	(.23*)
自己変身	必要度 (確保度)	.29* .26*

N=76

* $p < .05$, ** $p < .01$

要約と結論

本研究の目的は次の4点にまとめられる。(1)プライベート空間7機能が日本以外の文化圏においても必要とされ、また確保されているのかどうかを確認すること、(2)泊・吉田(1999)で日本人大学生を対象に検討されたプライベート空間7機能と感情状態や場所利用の関係が、アメリカ人大学生の場合どのような関係にあるのかを検討すること、(3)プ

プライベート空間7機能と個人のアイデンティティやセルフはどのように関係づけられるのかを探索的に検討すること、(4)電子調査法(internet survey)という新たな調査手法を試み、その適用可能性を探ること、である。以下では、これら4点について結果を要約し、今後の課題について述べる。

(1)については、泊(2000)や泊・吉田(1999)らの先行研究の知見を参照すると、概して、本研究のアメリカ人大学生は日本人大学生よりもプライベート空間7機能を確保できており、必要度は比較的低いことが示された。このことはアメリカ人大学生においてもプライベート空間7機能の確保がなされていることを意味し、ある程度確保されているがゆえに、必要度があまり強く意識されないことを示唆している。ただし、これらの結果は同一の調査方法に基づく比較ではないため、安易に結論づけることは慎むべきである。今後は、日本人大学生においても電子調査法による調査を実施し、あらためて日米大学生の調査結果を比較・検討する必要がある。

(2)プライベート空間7機能と感情状態の関係では、抑うつ感・いらだちに対して自己内省・気分転換を求める反応は一致していたが、アメリカ人大学生はそれに加えて課題への集中や率直なコミュニケーションを求めているという結果が見出された。この結果はネガティブな感情の時に率直なコミュニケーションが強く求められることを示した泊・吉田(1999)とは異なるが、女子大学生20名を大

学施設で共同生活させ気分とプライバシー確保行動の関係を検討したBrown(1992)の見解とは整合していた。アメリカ人大学生にとって、自己のネガティブな感情状態を他者にさらすよりも、1人になって感情の整理を図ることの方がより求められると推察される。また、プライベート空間7機能を充たす場所とその利用時間帯を集計した結果、プライベート空間7機能と場所利用は泊・吉田(1999)で見出されたパターンとかなり共通していた。これより、プライベート空間7機能と場所利用の相互規定性が、ある程度普遍的なものである可能性が示唆された。ただし、サンプル数が少ないこともあるため、今後も引き続き検討する余地があるだろう。

(3) プライベート空間7機能と自己の関係については、自らユニークな人間でありたいと志向する者も、自らが何者であるか明確に認識できていない者(自己不明晰性が高い)も、普段の自分とは別の自分を表現する自己変身を求めている。前者の場合は、そうした欲求が何らかの具体的活動を伴って自己内省・課題への集中・気分転換の確保につながることが示唆されるが、後者の場合は、自己変身や気分転換を求めつつも自己イメージや考えが不明確なために、他者との率直なコミュニケーションを回避したがる可能性が伺われた。しかしながら、相関関係は決して強いものではないため、今後も結果を積み重ねていく必要があるだろう。また、当初の予測との関係では、(1)については自己不明晰性の予測は支持されなかったが、ユニークネス欲求の予測は部分的に支持されたと言える。(2)については、自己内省機能の確保は自己不明晰性ではなく、むしろユニークネスの高さと関係していることが示され、当初の予測と反する結果となった。この点については引き続き検討する必要があるだろう。

(4) 今回初めて試みた電子調査法については、研究協力者さえ得られれば、従来非常に難しかった比較文化的研究でさえもかなり簡便に実施しうることを例証したと言える。また、被調査者がインターネットを利用できる環境にあれば、いつでも好きなときに回答できるという点で自由度が高い調査法である。調査者側にとっても、従来の質問紙調査のように調査票を印刷する時間的・経済的コストが、電子調査法にはかからないという利点もある。しかし、本研究でインターネット調査を実施した中で、次のような問題点が浮きぼりになったことを述べておきたい。すなわち、インターネット上に質問票を置く電子調査法では、(a)被調査者が調査の全体像を把握しにくい、回答が途中で挫折してしまうことがある、(b)十分すぎるほどのアナウンスをしない

と被調査者がなかなか集められない、(c)母集団を限定して調査しないと、調査協力を依頼していない一般のインターネットユーザーからの回答が混入する恐れがあり、結果の代表性が疑われる、等である。当然のことながら、これらの問題点は既に多くの先行研究でも指摘されている。例えば村瀬(1996)は、インターネット調査が“時間的・労力的・金銭的コストの削減をもたらす、調査に対する心理的抵抗感を減らす”という長所を持つ一方で、“サンプルが偏るために結果の代表性に欠ける”という大きな欠点があることを指摘している。また、林(1999)は従来よりインターネット調査の識者に指摘されてきた長所と短所を詳細にまとめている。それらを要約すると、長所は概ね次の3点にまとめられよう。(a)調査の一連の手続き(調査票の配布・回答、結果の集計・分析・回収・フィードバック)にかかるコストを削減できる、(b)短期間に大規模サンプルを獲得したり、広範囲の対象者に調査が実施できる、(c)インタラクティブ性があるため、回答者の反応から調査票を設計変更したり、不明な回答の問い合わせができる。他方、短所は次の3点に要約される。(a)パソコンユーザの母集団が確定できず標本の代表性が欠けている、(b)母集団が確定できないため標本調査の方法論が適用できない、(c)基本的に回答率は低調であるので、回答者は逆に標本として偏っている可能性がある(懸賞や謝礼目当てで応募するマニアや複数応答する者が存在する)。

このように、インターネット調査の標本や結果の代表性には疑問が投げかけられており、調査手法としての評価を確立するまでには数多くの方法論的課題を克服しなければならない。したがって、インターネット調査を利用しようとする我々調査者側は、上記のような問題点に十分留意した上で、結果の解釈を慎重に進めるべきであろう。むしろ、調査法としての限界を知りながらあえて利用するような形態、例えば、大まかな回答傾向を知るための予備調査的な位置づけとしては適当であるかもしれない。先述したように、調査内容と対象者を限定して利用する分には、従来型の質問紙調査よりも比較的簡便で利点が多い方法であると思われる。今後、電子調査法自体の方法論的研究が進んでいけば、調査法としての位置づけや評価も明確化していくと思われる。我々のような調査者側はこうした動向に目を配りながら、電子調査法の様々な問題点を克服すべく、調査手続きや調査票自体をより洗練させていく努力が必要だと考えられる。

引用文献

- Altman, I. 1975 The Environment and Social Behavior. Monterey, California: Brooks Cole.
- Altman, I. 1977 Privacy regulation: culturally universal or culturally specific. *Journal of Social Issues*, **33**, 66-84.
- Altman, I. & Chemers, M. 1980 Culture and environment. Cambridge: Cambridge University Press.
- Brown, B.B. 1992 The ecology of privacy and mood in a shared living groups. *Journal of Environmental Psychology*, **12**, 5-20.
- Campbell, J.D., Trapnell, P.D., Heine, S.J., Katz, I.M., Lavallee, L.F. & Lehman, D.R. 1996 Self-concept clarity: measurement, personality correlates, and cultural boundaries. *Journal of Personality and Social Psychology*, **70**, 141-156.
- Gregor, T.A. 1970 Exposure and seclusion: A study of institutionalized isolation among the Mehinacu indians of Brazil. *Ethology*, **9**, 234-250.
- Gregor, T.A. 1974 Publicity, privacy and Mehinacu marriage. *Ethology*, **13**, 333-349.
- 林 英夫 1999 郵送調査とインターネット調査 関西大学社会学部紀要, **30**, 49-63.
- 岩田 紀 1987 日本人大学生におけるプライバシー志向性と人格特性との関係 社会心理学研究, **3**, 11-16.
- 村瀬洋一 1996 インターネット調査の光と陰—偏りの大きい調査をどう使うか— 理論と方法, **11**, 57-62.
- 岡本浩一 1985 独自性欲求の個人差測定に関する基礎的研究 心理学研究, **56**, 160-166.
- Patterson, A.H. & Chiswick, N.R. 1981 The role of the social and physical environment in privacy maintenance among the Iban of Borneo. *Journal of Environmental Psychology*, **1**, 131-139.
- Pedersen, D.M. 1979 Dimensions of privacy. *Perceptual and Motor Skills*, **48**, 1291-1297.
- Schoeneman, T.J. 1981 Reports of the sources of self-knowledge. *Journal of Personality*, **49**, 284-294.
- 高田利武 1990 自己認識方途としての社会的比較の位置 日本グループ・ダイナミクス学会第38回大会発表論文集, 77-78
- 泊 真児 2000 プライベート空間の心理的機能 平成11年度筑波大学心理学研究科博士論文(未公開)
- 泊 真児・吉田富二雄 1998a プライベート空間の心理的意味とその機能—プライバシー研究の概観と新たなモデルの提出— 筑波大学心理学研究, **20**, 173-190.
- 泊 真児・吉田富二雄 1998b プライベート空間機能尺度の作成及び信頼性・妥当性の検討 日本社会心理学会第39回大会発表論文集, 90-91.
- 泊 真児・吉田富二雄 1999 プライベート空間の機能と感情及び場所利用との関係 社会心理学研究, **15**, 77-89.
- Westin, A.F. 1967 Privacy and Freedom. New York: Atheneum.
- 山岡重行 1993 ユニークネス尺度の信頼性・妥当性の検討 社会心理学研究, **9**, 181-194.
- 吉田圭吾 1996 PRIVACY志向性と人格特性との関係 日本教育心理学会第38回総会発表論文集, 213.
- 吉田圭吾・溝上慎一 1996 プライバシー志向性尺度(本邦版)に関する検討 心理学研究, **67**, 50-55.

—2000. 9. 29 受稿—

付録1

College Student Life Survey

This is a request for your cooperation in a cross-cultural study

Description

This study was designed in order to grasp the college student's daily life. The result of the study will be used for statistical purposes only, and individuals will remain anonymous. Please relax and take this survey honestly. The survey should take around 15 minutes. Thank you for your cooperation.

Contact

Survey creation and analysis by
 Researcher: Department of Psychology
 College of Human Science, University of Tsukuba, Japan.

CGI-scripting and hosting by

Before you start the survey, please answer some quick questions

Sex | male ▼
 Age |
 Living Conditions | Live with family ▼
 University/College |

The survey

Q1: How often do you need the following seven types of time and space recently ? (answer based on the degree of necessity) Also how much are you assured for these times and spaces?(the scale for the assurance) Please select one choice from each scale which most closely matches you.

	Time and space in which you can...	Level of need	Level of assurance
1:	...relax and rest	Absolutely don't need it ▼	Not assured ▼
2:	...change your mood	Absolutely don't need it ▼	Not assured ▼
3:	...free yourself from daily life	Absolutely don't need it ▼	Not assured ▼

4:	..express yourself as a different person than usual.	Absolutely don't need it ▼	Not assured ▼
5:	..meet with your friends	Absolutely don't need it ▼	Not assured ▼
6:	..concentrate on work or deep thoughts	Absolutely don't need it ▼	Not assured ▼
7:	..look back on yourself	Absolutely don't need it ▼	Not assured ▼

Q2a: How much are you assured of these times, spaces, or people?

		Level of assurance
1:	A person who gives honest and direct opinions of the way you are.	Not assured ▼
2:	Time and space in which you can physically and mentally relax, when you are exhausted from relationships and studies.	Not assured ▼
3:	Time and space in which you can aggressively try to be a different person than usual.	Not assured ▼
4:	Time and space in which you can concentrate on a project or activity.	Not assured ▼
5:	Time and space in which you can settle down and think about yourself.	Not assured ▼
6:	Time and space in which you can refresh yourself by going out.	Not assured ▼
7:	Time and space in which you can express your emotions freely.	Not assured ▼
8:	A person from whom you do not have to hide your true thoughts.	Not assured ▼
9:	Time and space in which you can be alone when you experience profound sadness.	Not assured ▼
10:	Time and space in which you can participate in an activity outside your daily role.	Not assured ▼
11:	A good environment in which you can study comfortably.	Not assured ▼
12:	Time and space in which you can organize your thoughts when you are busy and are in a state of confusion.	Not assured ▼
13:	Time and space in which you can build yourself and develop a new "you".	Not assured ▼
14:	Time and space in which you can release yourself from irritation.	Not assured ▼
15:	A relationship in which you can be yourself without acting.	Not assured ▼

Q2b: How much are you assured of these times, spaces, or people?

		Level of assurance
1:	Time and space for being lost in thought.	Not assured ▼
2:	Time and space in which you can refresh your mind entirely.	Not assured ▼
3:	Time and space in which you can work on a project without being disturbed by outside factors.	Not assured ▼
4:	Time and space in which you can look back upon yourself in your busy daily life.	Not assured ▼
5:	Time and space in which you can release your stress and recover from the exhaustion.	Not assured ▼
6:	Time and space in which you can release your excitement.	Not assured ▼
7:	A relationship in which you can exchange honest opinions.	Not assured ▼
8:	Time and space in which you can relax without any interference by others including your family members.	Not assured ▼
9:	Time and space in which you can make your daily life full of changes.	Not assured ▼
10:	Time and space in which you can concentrate on your thoughts.	Not assured ▼
11:	Time and space in which you can be alone when you are depressed.	Not assured ▼
12:	Time and space in which you can look at your past and think about the future.	Not assured ▼
13:	Time and space in which you can change yourself emotionally.	Not assured ▼
14:	Time and space in which you can think by yourself when frustration in your daily life caused you to get lost on your path of life.	Not assured ▼
15:	Time and space in which you can think about how people think of you.	Not assured ▼
16:	A person to whom you can confess your inner thoughts.	Not assured ▼

Q3: To what degree do these following adjectives match your recent feelings?

		Degree of feelings
1:	Busy, being chased	I absolutely don't feel that way ▼
2:	Irritated	I absolutely don't feel that way ▼
3:	Bored on ordinary days	I absolutely don't feel that way ▼
4:	Depressed	I absolutely don't feel that way ▼

5:	Humiliated	I absolutely don't feel that way ▼
6:	Pleasant	I absolutely don't feel that way ▼
7:	Full of energy	I absolutely don't feel that way ▼
8:	Restricted	I absolutely don't feel that way ▼

Q4: To what degree do you agree to the following statements?

1:	My beliefs about myself often conflict with one another	I strongly disagree ▼
2:	My opinion of myself may differ from one day to the next	I strongly disagree ▼
3:	I spend a lot of time wondering about what kind of person I really am.	I strongly disagree ▼
4:	I sometimes feel that I am not really the person that I appear to be	I strongly disagree ▼
5:	When I think about the kind of person I've been in the past, I'm not sure what I was really like	I strongly disagree ▼
6:	I seldom experience conflict between different aspects of my personality	I strongly disagree ▼
7:	Sometimes i think I know other people better than I know myself	I strongly disagree ▼
8:	My beliefs about myself seem to change very frequently	I strongly disagree ▼
9:	If I were asked to describe my personality, my description might differ from one day to the next	I strongly disagree ▼
10:	Even if I wanted to, I don't think I would tell someone what I'm really like	I strongly disagree ▼
11:	In general, I have a clear sense of who I am and what I am	I strongly disagree ▼
12:	It is often hard for me to make up my mind about things because I don't really know what I want	I strongly disagree ▼

Q5: To what degree do you agree to the following statements?

1:	I prefer making something myself, rather than settling for something already made	I strongly disagree ▼
2:	I don't want people to think that I am conventional	I strongly disagree ▼
3:	I am a unique person	I strongly disagree ▼
4:	I want to do something different rather than doing the same thing as others	I strongly disagree ▼
5:	I want other people to think that I challenge myself, rather than taking the easy way out	I strongly disagree ▼
6:	I always try to show the various aspects of myself in social life	I strongly disagree ▼

7:	I always try to play as many roles as possible in my life	I strongly disagree ▼
----	---	-----------------------

Q6: When you need the following seven types of times and spaces, where do you actually go, and when? Please enter the place(s) you would go and the time(s) of day you'd go there. (e.g. time and space in which you can relax and rest: My room, in the middle of the day. library. In my bed)

	Time and Space to...	Places and Times
1:	.. relax and rest	
2:	.. change your mood	
3:	.. free yourself from daily life	
4:	.. express yourself as a different person than usual	
5:	.. to meet with friends	
6:	.. to concentrate on a project or on deep thoughts	
7:	.. to look back on yourself	

Q7: Please relate how you describe yourself to other people. (e.g. 1: I am working at Washington Hospital as a volunteer. 2: I live in Virginia)

1:	
2:	
3:	
4:	
5:	
6:	
7:	
8:	
9:	
10:	
11:	
12:	

13:	<input type="text"/>
14:	<input type="text"/>
15:	<input type="text"/>

End of survey

When you finish this survey, please make sure that you haven't missed any answers. -
Thank you for your cooperation!-

— SUBMIT SUBMIT SUBMIT SUBMIT —